

2026年 2 月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時 2026/2/7 (土) 10:00~16:00
2. 開催場所 アイテックインターナショナル
3. 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|----|---|----|---|----|---|-------|---|----|---|----|---|----|---|
| 大見 | 欠 | 牧野 | S | 横尾 | S | 城越 | S | 伊藤 | S | 舟山 | S | 出島 | L | 水田 | S |
| 山口(展) | 書 | 黒田 | S | 鈴木 | L | 池田 | S | 山口(直) | S | 前田 | S | 木村 | S | 藤井 | S |
| 北村専務 | L | | | | | | | | | | | | | | |
| 河合 | 休 | 杉浦 | 休 | 福田 | 休 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

4. 研究会内容

1) 「品質工学コマ教材の実験結果まとめ」(鈴木)

下の3)を参照のこと

2) 「品質工学資料作成方法紹介」(山口直)

部外秘なので内容記載しない。

3) 「教材開発」(全員)

■コマチーム検討まとめ

合宿の実験結果と鈴木さんによるフォロー実験の結果の総合まとめをもとに結果を整理した。

(1)実験結果に基づく知見①部品精度に限界があり、そこから生じる軸に対するコマ本体の偏心により組立バラつきが生じる。

②誤差が無い部品を入手できれば、バラつきが減り、SN比が上がる。

(2)今後のまとめ方

①望目特性SN比で組み合わせを選ぶと、長く回るコマでなく回転数の変化が少ない

コマを選ぶことになる。望大特性SN比で選ぶと結果が異なるので何を

求めるかを整理する必要がある。

②教材の研究として考えるならどのような実験が成功と言えるかを自分たちで

定義する必要がある。

③以上を踏まえて実験結果を整理して3月定例会で報告する。

■紙コプターチーム検討まとめ

合宿での実験の際、紙コプター降下時間の計測者2名間の差が大きかったため、再度実験を行った。

iPhoneによる動画撮影を行い、降下開始と着地のポイントを動画のコマ単位で求めることで、

2名の計測誤差は最大で0.07秒に収めることができた。

合宿時に使用した機体を保管していたので、同じ機体を使用した実験を行ったが、合宿時よりも安定して降下して

いた。これは、合宿の会場と異なり、エアコンの調整が可能ため風の影響を無くすことができた為と考えられる。

各因子の最適条件が求まったため、来月の研究会にて確認実験を実施する予定。

2) 「事務局連絡」

3月の研究会は見学者が来るかもしれない、との連絡あり。